

## 長崎県・ハウステンボスとIR候補地に関する基本合意

4月8日、本市は長崎県・ハウステンボスとの三者でハウステンボスの土地と建物の一部をIRの候補地とすることについて基本合意しました。

国はIRの要件として大規模な国際会議場や展示場、ホテルの建設を必須としており、今回の合意によってハウステンボス敷地内の西部(約30%)をIR候補地として確保したことになります。

記者会見でハウステンボスの澤田社長(当時)は「ハウ



IRの候補地について基本合意し、握手する(左から)朝長市長、中村県知事、澤田HTB社長、坂口HTB最高人事責任者(当時)

ステンボスにとっても集客のチャンス。全面的に協力していきたい」と述べ、中村県知事も「大きな前進であり、ハウステンボスに感謝する。風光明媚な大村湾に面する土地でIRが実現できる。国の区域認定に向けて全力で取り組む」と話しました。また、朝長市長も「九州や長崎、佐世保の発展のために難しい経営判断をしていただいた。他の地域と戦える準備が整った」と述べました。



## IR区域認定までの流れ

IR区域認定までの詳細については今後国から示され、

①～⑤の順に進められる予定です。全国で3カ所の区域認定を勝ち取るため、スピード感を持って進めていきますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

### ①国が基本方針を策定

IR区域整備の基本的な方向性を示します

### ②県が実施方針を策定

申請するIR区域の整備の意義や目標、民間事業者の募集選定などを定めます

### ③県が民間事業者を公募・選定

民間事業者から提案を募り、公平・公正に選びます

### ④県と民間事業者が区域整備計画を作成・申請

IRの位置や規模、事業内容など区域整備の具体的な計画をまとめて国へ申請します

### ⑤国がIR区域を認定

※認定後、民間事業者がIRを建設し、開業します。

## IRに関するQ&A

Q IRはカジノだけの施設なんですか？

A IRと聞けばカジノをイメージする人が多いようですが、カジノはあくまでも施設全体の一部です。IR整備法によってカジノは施設全体の3%以内と制限されており、他の97%はファミリー・ビジネス向けの施設となります。

Q カジノができると、ギャンブル依存症の人が増加するのではないですか？

A IRの導入によってギャンブル依存症の人が増加することがないように、次のような入場規制が行われます。

- ・入場回数を制限。連続する7日間で3回、28日間で10回まで
- ・マイナンバーカードによる本人確認と入場回数確認
- ・入場料は1回当たり6,000円
- ・入場制限は日本人と国内に住所がある外国人が対象

## 特定複合観光施設(IR)誘致を進めています

本市では新たな雇用の創出や交流人口の拡大を目指し、8つのリーディングプロジェクトの一つとして「特定複合観光施設(IR)誘致」に取り組んでいます。ここではIRがもたらす効果やこれまでの誘致に向けた取り組み、4月に長崎県・ハウステンボスと合意した「九州・長崎IR候補地に関する基本合意」などについてお知らせします。

### 特定複合観光施設(IR)とは

「特定複合観光施設(IR)」とは、国際会議場や展示場、エンターテインメント施設、ホテル、カジノなどが一体となった民間事業者が設置・運営する観光施設です。昨年7月、国際競争力の高い魅力ある滞在型観光を実現するために「IR整備法」が公布され、国はIR区域の認定を全国で最大3カ所とすることを決めました。本市ではこのIR区域の認定を目指し、長崎県と共同でさまざまな取り組みを行っています。



### IRがもたらす効果

現在、本市は人口減少や若者の流出などさまざまな課題に直面しており、解決に向けた対策が求められています。その対策の一つとして、これまでにないスケールとクオリティを有した大人も子どもも楽しめるIRを誘致することができれば、世界中から注目され、これらの課題解決につながるのではないかと考えています。

IRがもたらす効果として、①地域経済の活性化②新たな雇用の創出③定住人口の増加④交流人口の拡大などが期待されています。IR誘致によって建設や観光・レジャー、サービス、小売り、金融、施設運営、輸送など幅広い産業に経済波及効果が生まれ、これにより良質な多様な雇用の場を確保することができれば、定住人口の

増加が期待できます。また、東京や大阪などに集中している観光客も「九州・長崎IR」によって地方から人の流れを生み出すことができ、地域振興や観光への寄与にとどまらず、地方創生の起爆剤として大きな効果が期待されています。

### 【九州圏内への経済波及効果(試算)】

- ・集客延人数 年間約740万人
- ・雇用創出効果 約2万2000人

※出所:長崎IR基本構想有識者会議取りまとめ

### 【IR開業前後のシンガポールの事例】

- ・外国人観光客56%増加(968万人⇒1510万人)
- ・外国人旅行消費額86%増加(1兆円⇒1兆8600億円)
- ・国際会議23%増加(689件⇒850件)

※数字は平成21年⇒平成26年。

### IR誘致に向けた取り組み

本市では、平成19年に民間を中心に発足した「西九州統合型リゾート研究会」をはじめ、民間・議会・行政が一丸となり、全国に先駆けてIR誘致を進めてきました。25年には佐世保市議会が「統合型リゾート誘致推進議員連盟」を発足し、国へのIR法整備の働きかけなどを積極的に行ってきました。26年には長崎県知事が県議会においてIR誘致推進を表明し、「長崎県・佐世保市IR推進協議会」を設置しました。

また、昨年10月には本市で「九州・長崎IR推進決起大会」を開催し、九州経済界などを含む関係者約340人が出席する中、九州第一弾となる区域認定を目指すことなどを決議しました。



「九州・長崎IR推進決起大会」の様子